

## 南海トラフで取り組む 海底地殻変動調査

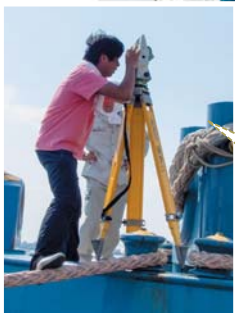


安田さん

水深や水温、  
電気伝導度を測る  
UCTD (Underway CTD)  
という機材による観測



船に積装した観測機材  
の測量



地球環境科学専攻 安田 健二さん 博士後期課程3年

学部時代、他大学で海洋資源学を専攻していた安田健二さん。地震につながる海洋プレートの動きを研究したいと、環境学研究科地震火山研究センターの田所敬一研究室にやってきた。名古屋大学は、長年にわたり駿河湾や熊野灘で海底地殻変動の機器開発と研究観測を行い、この分野では、海上保安庁、東北大と並んで日本をリードする存在。その観測の仕組みは、あらかじめ海底に設置した観測点と船の間で音波を送受信し、観測点の位置を決定。これを繰り返し行うことで海底面がどう動いているかを解析するというもので、今では、日本が世界に誇る観測技術となっている。

安田さんが今、取り組んでいるのは、2013年に新しく設置された南海トラフ軸の観測点。30年以内に高い確率で巨大地震が発生すると言われる震源域だけに、「けっこういろんな人に期待される研究」と笑う。5、6人のチームで和歌山県新宮港から調査船に乗り、観測地点へ。到着したら音波を送って、海底の受信状況を24時間交替で見続ける。トータルすれば、1年のうち1カ月は海の上。ウミガメやマンボウにも遭遇する。「南海トラフで起こりうる地震の規模を、観測に基づいたデータから計算し、防災に役立てたい。場所や規模、津波の大きさまでわかれば、自治体も事前に、より現実的な想定ができる」と、南海トラフを相手にする研究に意欲をみせている。

 名古屋大学

〒464-8601

名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院環境学研究科

TEL.052-789-3455

www.env.nagoya-u.ac.jp/

